

# 中学生を対象とした古典に親しむ国語の授業の提案

学習開発コース (13220911) 宮越 今日子

平成 20 年の学習指導要領改訂により、国語科では古典に親しむ態度を育成する指導がこれまで以上に重視されることとなった。そこで本研究では、生徒が古典に親しむことができるような国語の授業の提案を目指す。今回は大村はまの授業実践を取り上げ、大村の古典の指導上の手立ての整理をした。また、教職専門実習Ⅱでの授業実践を振り返り、今後の自分自身の国語科授業の単元構想の方向性や授業実践での課題を明らかにした。

[キーワード] 古典に親しむ、大村はま、国語授業、中学校

## 1 問題の所在と方法

平成 20 年の学習指導要領改訂により、国語科には「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針には、「古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する」ことが示されている。このように国語科では、古典に親しむ態度を育成する指導が重視されることとなった。しかし古典に苦手意識を持つ生徒は多く、これまでの古典を教材とした授業では生徒が古典に親しむことは難しいのではないかと考える。

平成 17 年度に行われた高等学校教育課程実施状況調査では「古文は好きだ」という問いと「漢文は好きだ」という問いに、「どちらかというそう思わない」、「そう思わない」と回答した生徒を合わせた割合は、どちらも約 7 割におよぶ。また、平成 25 年度に行われた全国学力・学習状況調査の中学校 3 年生を対象とした質問紙調査では、「古典は好きですか」という問いに「どちらかという、当てはまらない」、「当てはまらない」と回答した生徒を合わせた割合は約 7 割となっている。このことから生徒にとって古典とは親しみにくいものとしてとらえられており、従来の古典を教材として取り上げた授業では、生徒に古典に親しませるということは難しいのではないかと考える。

本研究ではこれまでの古典に関する国語の授業を見直し、生徒が古典に親しむことができるような指導の手立てを検討する。そしてそれらを踏

まえた上で、今後の自分自身の国語の授業の在り方について検討する。

## 2 先行研究の検討

### (1) 古典に親しむ

先行研究として、大村はまの授業実践を取り上げる。大村は「古典に親しむ」を目標に、古典を教材とした授業実践を行っている。

国語の古典の授業で扱われる教材は、現代の文章と比べてみると言葉や文法に大きな違いがある。ある程度の古典の知識や解説がなくては、書かれている内容が理解できない。生徒にとってはなじみにくい文章であり、抵抗感をおぼえるものであると考えられる。そのため、まずは生徒は古典の文章を読解できるようになる必要がある。

しかし、大村(1983b)は中学校の生徒が古典の文章を解釈していくことは難しいと考えた。また、解釈を通して古典の読解をすることができても、生徒は古典は難しいものだと思ってしまうことを危惧した。そのため、古典に親しむという目標を定め、授業実践を行った。このとき大村は、古典にじかに触れさせながら、生徒に古典に親しませたいと考えた。古典に書かれている内容は生徒の心にひびくものだとし、工夫を加えて文章への抵抗感を除くことを考え、テキスト作りにこだわった。

### (2) 大村はまの授業実践から

大村が授業実践で使用したテキスト(表 1 参照)は萩原廣道の源氏物語評釈を参考にして作成されている。このテキストについて大村は「原文を少しゆるやかに読み聞かせると、右側の書き入

表 1. 大村が作成したテキスト

◁がよい。 ◁が 美しくあかあかと つつ  
 秋は夕ぐれ◁。 夕日◁、 はなやかに さして、  
 ユウヒ  
 山ぎわ ◁にたいそう なつ ている◁その空  
 山のは◁ いと 近う なり たる◁に、  
 ハ チョ  
 ◁なんか  
 が ねぐら 帰る  
 からす◁の ねじころへ ゆくとて、  
 という  
 三羽 四羽 二羽 ふうに◁つれたつて◁の まで  
 三つ 四つ 二つ など◁ 飛びゆく◁ さへ  
 シ ヨ フタ エ  
 味わいがある  
 あはれなり。  
 ワ  
 のよう◁趣のある鳥  
 まして がん な が 列になつ ている◁それ  
 まいて かり など◁の つらね たる◁が  
 ◁ずうつと遠くとんでゆくすがたが  
 ◁けしきが  
 たいそう たいそう おもしろい  
 ◁いと 小さく見ゆる◁いと をかし。  
 オ

れが本文といっしょに目に入って、耳に古典の調子を聞き、原文にじかに触れつつ、意味は口語で受けとめられていくと考えた」と述べている。

このテキストは様々な工夫がなされている。

- ・文章の右側だけ読めばそれで口語の文章になっているようにしていること
- ・「けり」や「あり」など、同じ言葉が前段で繰り返されてもそのたびに意味を書いておくこと
- ・単語の意識を明確にさせること

後に古典を本格的に学習するときに役立つようなテキスト作りを行っている。大村は「どんな古典注釈でもやりのけるような人の勉強にも耐えるだけのテキストにしておきたい」と考えていた。

### 3 実践と結果

(1) 教職専門実習Ⅱにおける授業実践

山形市内のX中学校において教職専門実習Ⅱを行った。配属された2年生の国語の授業を行った。「ガイアの知性」(龍村仁)、「悠久の自然」(星野道夫)を教材として、説明的な文章の授業実践を行った。単元名は「自然と人間のかかわりについて考えよう～意見文を書く～」である。自然と人間のかかわりについて書かれた教材を読み、二つの文章を読み比べ、自身の自然と人間のかかわりの考えを広げ、意見文として書きまとめさせる指導計画を立てた。この授業実践の指導計画は表2の通りである。

表 2. 教職專門実習Ⅱ 指導計画

時間	学習内容
1	「自然と人間のかかわり」に関する自分の考えを書こう。 自分の考えと比べながら「悠久の自然」を読もう。
2	自分の考えと比べながら「ガイアの知性」を読もう。
3	「ガイアの知性」の文章構成をとらえ、それぞれの 大段落に見出しをつけよう。
4	第一大段落を読み、筆者の執筆動機を確認しよう。 第二大段落を読み、鯨や象が持つ「知性」について 考えよう。
5	第三大段落を読み、「ガイアの知性」とは何かを考え、 筆者の主張を捉えよう。
6	「悠久の自然」を読み、筆者の主張を捉えよう。
7	自然と人間のかかわりに関する意見文を書こう。

この授業実践を通して、授業中の生徒の様子から自身の授業実践上の課題について明らかにする。

## (2) 授業実践での結果

【場面 1】

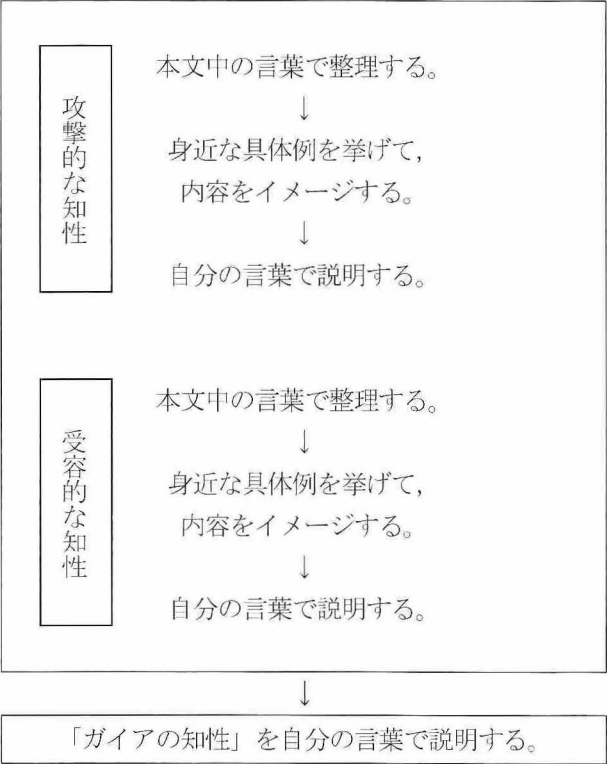
ここで取り上げるのは、指導計画では5時間目にあたる授業である。

5 時間目は「筆者が主張する『ガイアの知性』について理解し、自分の言葉で説明してみよう」という学習課題で授業実践を行った。この授業では、「ガイアの知性」のキーワードである「攻撃的

な知性」と「受容的な知性」を自分の言葉で説明することを目標に授業を行った。

これらを自分の言葉で説明しようとする中で、文章の内容が理解できたか確認することができると考えた。生徒が自分の言葉で「攻撃的な知性」、「受容的な知性」の説明ができるようにするために、表3のような段階を踏んで授業を進めた。

表3. 5 時間目の授業構想



ここで取り上げる場面は、「攻撃的な知性」の身近な具体例を挙げて内容をイメージすることである。ここでは3〜4人でのグループで活動を行った。このとき「攻撃的な知性」にあてはまる身近な具体例についてグループで話し合うことを指示した。その直後、いくつかのグループは話し合いが進まない状態だった。生徒たちは互いに顔を見合わせたり、首を傾げたりと戸惑った様子を示していた。その後、あるグループが「ダムじゃない?」と大きな声で発言したことによって、戸惑っていたグループの生徒たちはその言葉にうなずき、話し合いを始め、それぞれ具体例を挙げていった。

【場面2】

次に取り上げるのは、指導計画では2時間目にあたる授業である。2 時間目は「自分の考えと比べながら『ガイアの知性』を読もう」という学習

課題で授業実践を行った。この授業では、「ガイアの知性」を読み、筆者の考えと自分の考えを比較し、共通点、相違点、疑問点の3つの観点で書きまとめる活動を行った。

この活動は自分の考えを明確にすることを目的として行った。そして上記の3つの観点を与えることで、何度も「ガイアの知性」を読むことになり、「ガイアの知性」の内容や筆者の主張を理解することが可能になるのではないかと考えた。この学習活動では、学習活動の指示が出されてまもなく、学習プリントに書き出す生徒がいた一方で、「全然わかんねえ。知らねえんだけど」とつぶやき、学習プリントに書き出せない生徒がいた。

4 考察

ここでは授業実践の場面で見られた生徒の反応についての考察をする。

(1) 【場面1】の考察

ここではいくつかのグループが戸惑った表情を見せ、互いに顔を見合わせたり、首を傾げたりした理由について考えることとする。

生徒は何をしたらいいのかわからないという状態であったことが考えられる。多くの生徒がどのような具体例を挙げたらいいのかわからない状態に陥っていた。生徒は問われている具体例に関するイメージができていなかったと考えられる。この授業において、あるグループが「ダムじゃない?」と大きな声で発言したことによって、戸惑っていたグループの生徒たちはその言葉にうなずき、話し合いを始め、それぞれ具体例を挙げていったという場面があった。このことから、「ダム」というモデルが出されたことで、どのような具体例をあげたらよいかのが明確になり、生徒は学習活動に取り組み始めることができたと考えられる。

この場面から、見通しやゴールのイメージを明確にすることが、このグループでの話し合いの場面では非常に重要であったことがわかる。見通しやゴールのイメージをはっきりとさせることで、それに至るためにどのようなことをすべきかという途中の活動の見通しもつき、授業のねらいに沿った学習活動を促すようになると考えられる。

(2) 【場面2】の考察

ここでは学習プリントに書き出すことができた生徒と、書き出すことができなかった生徒の違いについて考察を行う。

筆者の考えと自分の考えの共通点、相違点、疑問点を学習プリントに書きまとめることを達成するためには、筆者の主張をとらえることと自分の主張を明確にしておくことが必要となる。筆者の主張も自分の主張も明確なものとしていなければ、比較することはできない。

学習プリントに書き出すことができた生徒は、筆者の主張と自分の主張を明確にしていたと考えられる。観察していた生徒は、1 時間目に書いた自分の意見文と「ガイアの知性」の文章に合致した部分があった。この生徒は「ガイアの知性」を読む前の 1 時間目に行った意見文を書く活動で、「人間は自然をコントロールし、思いのままに操ろうとして、自然を破壊しています」と書いていた。「攻撃的な知性」は本文中では「自分たちだけの安全と便利さのために自然をコントロールし、意のままに支配しようとする」、「人間は環境破壊を起こし、地球全体の生命を危機に陥れている」と説明されている。このようにこの生徒が書いた意見文と「ガイアの知性」の文章中の「攻撃的な知性」を説明した部分には似た表現が見られる。自分の書いた文章と合致した文章だったために、すぐさま学習プリントに書き出すことができたと考えられる。

学習プリントに筆者の考えと自分の考えの共通点、相違点、疑問点を書き出せなかった生徒について考察する。学習プリントに書き出せなかった理由として、筆者の主張をとらえきれなかったことや自分の主張が明確なものとなっていなかったことが考えられる。そして「ガイアの知性」が生徒にとって難解な文章であり、筆者の主張をとらえられなかった生徒がいたと考えられる。

また、生徒に多くの課題があったことが考えられる。この活動の際、生徒には「ガイアの知性」を読んだ感想、自分の自然と人間のかかわりに関しての意見や主張、「ガイアの知性」の内容、筆者の主張のそれぞれを明確にして整理し、3 つの観点で書きまとめることが求められていた。3 つの観点で書くという活動が、生徒にとっては負担が大きすぎたと考えられる。それが生徒が書き出せなかった一つの理由である。整理すべき事柄や考えるべき課題をもっと絞り、生徒の考え方を焦点化させる必要があった。

この場面から教師が提示した学習課題は一つであっても、複数の学習課題で構成されている場

合があることがわかった。整理すべき事柄や考えるべき課題が多く、処理しきれないために生徒の学習活動への取り組みが、こちらの予想とは違ったものとなってしまおうと考えられる。

### (3) 授業実践上の課題

以上のことから、自身の授業実践の課題として、生徒に学習活動の見通しを持たせないこと、多くの活動を生徒に行わせていることがわかった。今後の授業実践では、学習課題の見通しやゴールのイメージを把握できるようにすることや活動の指示や内容を精選することが必要である。

## 5 到達点と課題

教職専門実習Ⅱを通して、自身の授業実践の課題が明らかとなった。生徒の実態と自分の実態、課題を踏まえた上で、古典を教材とした国語の授業の提案を行いたい。そして提案授業を実践し、生徒の実態に合わせた授業となるように精度を高めていきたい。

### 引用・参考文献

- 国立教育政策研究所『平成 25 年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料』, 2013  
<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/data/junior-national/index.html>  
(最終閲覧日 2014 年 1 月 29 日)
- 国立教育政策研究所『平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査 ペーパーテスト調査集計結果及び質問紙調査集計結果』, 2007  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei\\_h17\\_h/](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/) (最終閲覧日 2014 年 1 月 29 日)
- 教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』, 2012
- 中央教育審議会『国語科の現状と課題、改善の方向性 (検討素案)』, 2007  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/011/siryo/07101607/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/011/siryo/07101607/001.htm)  
(最終閲覧日 2014 年 1 月 29 日)
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編(平成 20 年告示)』, 東洋館出版社, 2008
- 大村はま『大村はま国語教室第三巻 古典に親しませる学習指導』, 筑摩書房, 1983a
- 大村はま『大村はまの国語教室2 さまざまのくふう』, 小学館, 1983b